



「子供の尊い命を守り、無限の可能性を伸ばす」陣屋小学校

陣屋小だより

学校教育目標
かしこく
やさしく
たくましく

令和5年6月1日
第3号

いろいろな大人から学ぶ

校長 保戸田雅之

私が小学4年生だった頃のことです。友達の家に遊びに行ったとき、玄関での靴の脱ぎ方が悪いと友達の母親から叱られたことがありました。先生や家族からしか叱られたことがなかったので、とてもびっくりしました。でも、それ以来、脱いだ靴をきちんとそろえないと気持ちが悪い気がして、今でもその友達のお母さんには感謝しています。



最近の子供たちは、よその大人から教えられたり、叱られたりする機会が少なくなったと思います。もっと社会（世間）から学ぶ経験をしてほしいです。

近年、人間関係の希薄さが問題になり、いじめの要因の一つは人間関係の弱さではないかという意見もあります。コロナ禍がその影響をさらに大きくしていると感じます。なぜこうなってしまったのかを考えると、異世代間の交流が少なくなったことも影響しているのではないかと思います。

同世代の人とばかり話したり付き合ったりしていると、いつも同じ価値観でしか物事を考えないようになります。そうならないように、学校では「なかよしグループ(縦割り班)」をつくって異学年交流に取り組んでいます。先日顔合わせの会があり、来週には全校徒歩遠足に出かけます。

しかし、学校の中の異年齢交流だけでは限界があります。様々な職業の人との交流や、地域の高齢者の方との交流、外国人との交流など、全く違った環境の中で育った人たちと関わることによって、違った価値観や考え方に気付き、視野を広げたり、自分の生き方を考えたりすることができるのではないかと思います。様々な職業に就いている方と接する

ことで、将来の夢が広がるかも知れません。高齢者の方に昔の遊びを教えていただいて、遊びをとおして人と関わることの楽しさに気付くかもしれません。

「我以外皆我師（われいがいみなわがし）」～自分以外のものはすべて私の師である～という言葉があります。人は心がけ一つで、先生とか師匠、指導者と呼ばれる人からだけでなく、どんな人からでも学ぶことができます。私も、子供たちの何気ない行動や言葉から大切なことに気付かされることがあります。コミュニティ・スクール陣屋として、陣屋っ子に「いろいろな大人から学ぶ」経験を多くさせるため、「学校応援団」の活動を充実させたいと願っています。子供たちの豊かな学びとなるアイデアがありましたらぜひお聞かせください。

たくさんの方の保護者・地域の方から学び、いつか大人になったとき、次の世代に返してあげられたら素晴らしいなと思います。

修学旅行を終えて

5月18日(木)19日(金)、6年生は一泊二日の日光修学旅行に行ってきました。一日目は晴天に恵まれ、高原の爽やかな空気をたっぷり味わってきました。

二日間一緒に過ごす中で、6年生の子供たちの仲がとても良いこと、人との関わり方がとても優しいことが分かりました。修学旅行で深めた友情を生かして、最高学年としてさらに活躍してくれることを期待しています。



湯滝をバックに記念撮影